時事新報

露國皇太子の來遊

露國皇太子は皇族二名及び隨行員の人々と共に海外漫遊の途次來る五月頃我國にも來遊あるに付き我帝室にては十分の待遇を盡さるゝ由にて既に夫々の用意中なりと云ふ或は今回の來遊に就ては何か政略上の意味もあるやに言ふものなきに非ざれども西洋諸國の例として皇族の來遊に當り特に帝室にて接待あるは通常の事にして怪しむに足らず即ち文明國交の禮にして歐洲の如く互に國境を接して交通の便ある國々に於ては皇族の往來など頻々の事にして客の方にては成る可く繁禮を省て自他の迷惑を避けんとすれども主人たる國々の朝廷に於ては友誼國の榮譽を代表する皇族に對し成る可く好意を盡さんとして待遇の鄭重を旨とするの風にして既に先年有栖川宮の露國に赴かれたる折なども表面は微行の筈なりしも同國の帝室にては早くも接待の用意を整へ皇居を以て宮の旅館に宛つるなど懇待一方ならざりしと云ふ左れば今回露國皇太子の來遊に際し帝室にて接待の事あるは固より怪しむに足らずして凡そ國際の友誼は國の大小地の遠近に由りて相違ある可きに非ず今後支那朝鮮もしくは歐洲諸國の皇族にして來遊の事もあらんには帝室の待遇は必ず今回に異ならざる可きを信ずるなり然り而して我輩は特に我國人に所望する所のものあるは外ならず今回の來遊に就き帝室に於て鄭重の待遇あるは勿論の事なれども顧ふに露國は我近隣の大國にして彼我貿易上の關係も少なからず今後彼のサイベリヤ鐵道の工事落成するにも至らば其關係は益々親密と爲り僅々數十里を隔つる北海の邊に我產物輸出の一大市場を見るに至るや疑ふ可らず而して今回來遊の皇太子は他年一日露國皇帝の位に即かる可き貴賓なれば其來遊を幸に一國の榮譽を代表する其貴賓に對し十分の好意を表して上下の歡心を得るの注意は我國人の當に務む可き處にして政略云々などは今日に談ず可きことに非ず我輩は皇太子の來遊に際し帝室に於ても鄭重の厚遇ある其上に我一般の國人たるものも十分の好意を以て國賓を待するに怠らざるみとを信ずるなり

雜報

○帝國議會の評　一月三十日附を以て在英國の某氏より紐友の許へ達せし信書の中に曰く帝國議會の景況は實に上出來と存候衆議院の不整理も次第に改良するならんとの御觀察實に賀すべき事と存候只だ憾くは去る二十日の火災に御座候當地日本人は其火元に付き色々想像致し居候得共眞の過失か又は類燒か夫さへ未だ判然せず其日頃の郵便を待居候十二月中の有樣にては實に日本の國會は佛國などの國會に優る事幾等なる樣に存候商法延期に對する政府の擧動は上出來と存候得共實に驚きたるは政府提出案の第一號然かも日本開闢以來皮切りの法律案たる辯護士法案の第一號の說明の不分明不充分なるの一事に御坐候其緒言とも申すべき全體の主意は第一項に相見え候が其不條理なる事は論を要せず然れ共實際には右の理由の外に「佛獨に此草案の原案あり」と申す潜伏の說明あるを何故か明言せざる故に全く緒言なき草案と見做すの外無之と存候英國の習慣にて私事立法案を議する時に之を拒絕する所に「緒言の證明相立たず」と申候が右の辯護士法案の如きは全く此辭を適用して可なる樣に御坐候夫れは兎もあれ今日まで日本に生れたる新法律は大抵前記の如き累を捕ふるやうの理由に基きたるかと思へば批評の致し樣もなき事に御坐候只だ御氣の毒に堪へざるは斯くの如き法案の說明を擔當せらるゝ人々あり定めて御苦心の事と察居候云々

○脚氣病の豫防　東京陸軍各兵營にては每年三四月より脚氣病の發する由なるが本年も稍其徵候を現じたれば兵士の常食を麥飯に改めんとの協議中なりといふ

○酒田新潟への初航海　郵船會社は仙臺丸を以て近々同所に向け本年の初航海を爲さしむる由右兩所の航海を開くときは例年東京の商業に可なりの變動あるものありと云ふ

○上京委員の入費　衆議院に於て地價修正論の囂しかりし際東北地方の人々は非常に騷ぎ立ち態々總代を上京せしめて非地價修正の運動を爲さしめ其費用は有志家の醵金を以て支辨するみとゝ定めありしが當時匆々の際とて其金は先づ有志中の財產家にて立替へ置きたる所今度愈々事濟みて右費金の取集めとありては中々容易に出金する者なく結局之を立替へ置きたる者の負擔に歸する如き始末にて之れが爲め今にも紛議の起るべき模樣なりと云へり

○橫濱市會及び瓦斯と電燈の關係　橫濱の市會は明二十三日より開會する筈にて今回の議案は橫濱市明治廿四年度歲出入豫算を始め水道局經濟其他數件にて第一號議案より第廿一號迄なりと而して彼の瓦斯局處分案は已に區會の議決を經たれば何れ今回の市會にも掛るは勿論にて市會は此條件付の讓り渡しを承諾するや否は知る所にあらざれど多分承諾するに至るべき見込にて假令へ異議ありとするも條件の箇條を修正せば市會の不承諾を云はざるべしとの說あり果して愈よ區會が議決したる如く瓦斯局を公賣に付し買拂代金を市の基本財產とするに至れば瓦斯局は一の株式會社として營業を爲すを以て電燈會社と兩立し大に營業上競爭を起すの要もありて兩社の爲め不利益あれば寧ろ斯く定る上は電燈會社と合併せしめ橫濱に瓦斯電燈の一大會社を組織するに至らば兩社經濟上に少なからざる利益を與へ隨て株主となる人にも利なれば早晚兩社合併の協議を爲すに至るべしとの風說あり

○戰死者現はる　西南の暴動に賊軍一方の將として肥薩の間に戰ひたる熊本の緖方夫門といへる人は軍敗るゝの後更に蹤跡知れざるより必定亂軍の中に討死せしならんとの判定にて現に熊本鎭西館の境內に建設せる丁丑感舊之碑と云へるにも戰死者の中に算へられ姓名を刻しある程なるに近頃何地よりか飄然熊本に歸り來りしよし何人にも潜伏の地を明言せざれば之を知るによしなけれども友人に西字新聞紙の購求を依賴したる事などありし廉を以て見れば外國に逃亡し居たるには相違なかるべしと噂せり又同人は十年の戰爭の時已に四十歲なりしかば今は耳順に近づきたりと同地よりの報に見ゆ

○足尾銅山の流出物に對する會議　古川市兵衛氏の借區に係る栃木縣下足尾銅山の製銅所より渡瀨川に流出する所の一種の水液は其沿岸の各村に損害を與ふるものありとて從來該地方の人民が苦情を鳴しつゝありしが右に付群馬縣下新田、山田、邑樂三郡聯合水利土工會に於ては其損害の實否を調査したる上果して有害なるときは其筋に上申するは申迄もなく古川氏にも相當の協議を開かんと此程其れが爲めに臨時會を開設したるよし

○新造廣嶋丸　郵船會社の新造船廣嶋丸は豫期の如く去る十九日新嘉坡を發したれば愈々來る三十一日に橫濱へ着すべしと

○智利內亂の近報　前日の電報欄內に見えたる如く南亞米利加智利共和國にては今尙は戰爭中なりと云ふ最近の米國郵船が齎したる諸新聞によりて二月頃の模樣を記さんに二月十五日はドロレスと稱する所の野に於て戰爭あり政府軍敗北謀反黨の勝利にて政府方には五百人の死亡あり同十六日イクイク府は謀反黨の手に渡れり而して同夜に至りて一揆起りたりしが謀反黨と居留外國人の盡力にて鎭靜し此際一揆商擔のものも死傷は百七十五人に達したり同十七日ファラと稱する野に於て謀反黨の苦戰あり同十九日イクイク府に尙は殘り居たる政府軍の殘兵再擧を計る夕刻より曉に徹して雙方共頗る苦戰したり此時英國軍艦ワースパイトの艦長ランストン氏は一方には尙は同府內に殘されたる婦人小兒を艦內に引取るが爲め一方には暫時の休戰を談判するが爲め砲丸亂飛の中を犯して上陸したりしが夫が爲め同廿日の午時まで休戰するみとゝなり敵味方雙方より此趣を布告せり同日午後佐官ットー氏の苦戰にて政府軍謀反黨に降り玆に至りて都府は全く謀反黨の有となれり此役に外國人の殺されたるものは一人もなし云々右は二月二十五日イクイク發の報なり斯る有樣なれば合衆政府にては智利近海に碇泊する同國軍艦の數を少數なりとし海軍省及び國務省の間に數日間評議の末新造巡洋艦サンフランシスコを派遣するみとに決し成るべく速に出發すべき旨を達したりとぞ因に云ふ右サンフランシスコは智利の戰爭治まるの後に至れば多分太平洋艦隊の旗艦となるならんと云ふ是より先き二月二日伯露發の報に曰くコクインボ及びピサグワの地は再び政府軍の手に渡りピサグワの職人は戰爭の爲めに業を休みて飢餓に迫りたれば食物の供與ありたき旨を知事に要求したるに知事は遂に兵力を以て拒絕し死傷少からざりしヴァルパライソ港は尙は封鎖中なれども汽船は出入每に檢査を受けて入港するを得べし但午後五時後は入るを許さず入れば砲擊さるゝなりサンチアゴに於ける上等社會は悉く謀反黨に一味するものゝみなりと云々

○身代限の統計　明治十二年より二十年までに日本全國に於て身代限を爲したるものゝ統計は左の如し

年次	件數	負債主	負債高（圓）	償却高（圓）	償却高百圓に付（圓）
十二	九、三〇一	九、九三五	六六六、五七五	三四七、六六七	二一
十三	八、七〇七	九、八五五	三八二、三四四	二八六、一三六	二二
十四	七、二二四	七、七八九	〇四九、九九八	二三九、六一四	二三
十五	一〇、二九六	二二、一九一	六二四、一七六	三四二、五〇三	二一
十六	二九、一二五	三四、四九二	三四五二、三八六	七三五、九五二	二一
十七	二二、六四六	三七、五二六	四七一三、九〇四	一〇四、九一二	二二
十八	一〇、一八一	一四、四八三	二八七四、〇〇七	六三五、九一九	二二
十九	八、五九二	一〇、七三二	一〇八三、二八八	三九四、〇五八	二二
二十	六、七九七	八、七五六	二一九六、三六七	四一〇、五三七	一九

右の內巨額に上りたるは十六十七の兩年度にして此は紙幣價格の變動より來れる一般の恐慌に原由するものありと

○北海道札幌の近信　北海道廳の廳下札幌より三月十一日附を以て郵送し來れる書信の中に

北海道敎育會の設立　北海道と云へば深林荊棘のみにして碌に都會めきたる所もなく從つて敎育の如きは之れに比例せるものならんとの感を抱きて內地人は看過するみとあらんが實際は全く之に反して北海道沿岸の村落の如きは漁獵の爲めに生計の豐なるより金に差支